

体のいたる所にできるほくろ。生れた時からあるものもあれば、後からできるものもあります。特に生まれた時からのものは、大きさもさまざまです。盛り上がりついで、毛が生えています。爪にできると黒い線になります。

ほくろは長い期間、摩擦や圧迫などの刺激を受けると、ほくろのがん「メラノーマ（悪性黒色腫）」になります。広島県内の患者は年間10～20人ほど。他のがんと比べると少ないです。ただメラノーマが怖いのは、小さくても転移しやすく、病気の経過が非常に悪いことでしょう。歐米人では紫外線を受け

## 皮膚の病気あれこれ

④

岩崎泰政

### ほくろ



イラスト・霜野美香

### 悪性化心配なら受診を

細胞からもできることがあります。

では、気になる悪性になります。ほくろにはこんな特徴があるでしょう。①左右が対称でない②端がぎざぎざして、境界がはつきりしない③濃い部分や薄い部分があり、色にむらがある

④大きさが6ミリを超える⑤急に大きくなり、形や色も急に変化し盛り上がるなどです。メラノーマの場合は、盛り上がりついで、出血したりします。

診療していると、運勢が

変わるから顔のほくろは取

やすい顔面などにできるタイプが多い。しかし日本人は、刺激を受けやすい足の裏や、絶えず伸びている爪

などから生じるタイプが約半数を占めます。メラノーマはほくろからでなく、正常な皮膚にある色素を作

りたくないという人もいれば、見た目や悪性化を気にします。治療は手術で切ります。治療は手術で切ります。ただし、必ず痕が残ります。焼いて取る治療では再発もあります。後から検査ができなくなるのも課題です。

心配なほくろがあれば、皮膚科を受診してください。最近は皮膚を取らなくて、拡大鏡を使うダーモスコピ―という簡単な検査で、大半が瞬時に診断ができるようになりました。

（岩崎皮ふ科・形成外科院

長）福山市）